

健康だより

健康課・医療対策課
☎53-2101
各地域の保健センター
萩原 ☎52-1230
小坂 ☎62-3443
下呂 ☎25-2680
金山 ☎32-4500

健診を受けよう！

なぜ消費税をあげなくてはならないのか？
実は健康診断の結果と関係があるのです。

下呂市の現状

下呂市が保険者である国民健康保険の現状です。

1. 医療費の現状（下呂市国保医療費）

一人あたりの医療費（一年間）

一人あたりの医療費	
H20	270,881円
H21	289,804円
H22	296,358円
H23	312,675円
H24	319,336円
(一般 H20～24年)	
H20～24年までに増えた医療費	
約48,000円/人	

H20～23年の医療費の伸び率を全国と比較してみました。

H20～23年の医療費	都道府県	伸び率
1位	岐阜県	115.1%
2位	山梨県	114.7%
3位	滋賀県	114.3%
下呂市 115.4%		
下呂市は全国1位を上回る伸び率です。		

2. ではなぜこんなに医療費が高いのでしょうか。いくつかの条件があります。

①高齢化

年齢別の医療費を比較します。

年齢階級	1人あたり医療費
65歳以上人口 (H22)	47万7326円
35～44歳	16万6943円
15～24歳	4万7326円

年齢階級別医療費（全国計H22）

一般的に年齢が上がると1人あたりの医療費も高額になります。

65歳以上人口 (H22)
下呂市 33・1% 全国 23・0%

下呂市が65歳以上の人口が多いということは医療費が高くなります。

②入院が多い

医療費の内訳を分析すると外来に対して入院の件数が増え、費用も高額です。

③高額になる疾病と予防可能な生活習慣病
高額になる疾病のうち予防可能な疾病に着目します。

例えば高血圧では、通院して内服治療と生活改善をすれば、年間7万円の医療費ですが、重症化して脳血管疾患となると、手術や入院により900万円の医療費と、後遺症による介護が必要になります。

医療費をたくさん使わなくて済む為に

高額な疾病	脳血管疾患	虚血性心疾患	糖尿病性腎症
	クモ膜下出血 脳出血 脳梗塞	心筋梗塞 狭心症	
医療費 (1人あたり /1年間)	900万円 (手術、 リハビリ入院)	200～ 300万円 (手術)	600万円 (透析1年間)
高額な疾病を 予防できる 生活習慣病	高血圧症	脂質異常症	糖尿病
医療費 (1人あたり /1年間)	内服 7万円	内服 9万円	内服 17万円 インスリン注射 50万円
メタボリックシンドローム			

健診結果

は、予防可能な生活習慣病を重症化させて入院しないように、一人一人が心がけることです。

26年度下呂市国保予算では、医療費として支払う予算は28億円に対し、保険税として入るお金は9.2億円です。足りない医療費（保険給付費）の財源は、国や県からの支出金等によって賄われているため、今後も下呂市の医療費が増える国や県からの負担金も増大します。国保だけでなく働き盛りの方が加入する社会保険や共済保険等でも医療費が増大すれば、国は各自治体（保険者）に支出金が支払えなくなるので、財源を確保するために消費税が引き上げられるのです。

各保険者で特定健診がはじまりました。国保の特定健診では健診後には結果説明会があります。生活習慣病の予防について詳しくお伝えしますので是非ご参加ください。また、社会保険等の方も参加いただけますので、ご希望の方は各保健センターへお気軽にご連絡ください。

下呂市立休日診療所

下呂市森801・10（下呂市民会館内）

☎24・1200

※事前に電話をしてからお越しください。（予約はできません）

診療科目 内科、小児科

診療日（急病者に限りです）
日曜、祝日、年末年始

診療時間 午前9時～午後3時

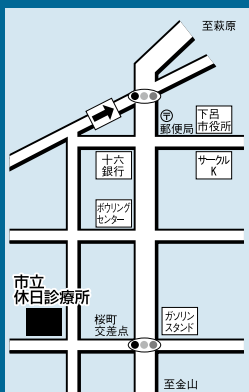
※受診の際は、必ず保険証やお薬手帳（ある場合）をお持ちください。

※急病者専用のため、平常継続して受けている治療はご遠慮ください。

6・7月の担当医

7月	6月
27日（日） 村瀬寛紀（精神科リミックス）	1日（日） 大塚正議（大塚耳鼻咽喉科医院）
21日（木） 小林源博（こばやし整形外科）	8日（日） 大林秀成（萩原北醫院）
20日（水） 阿部親司（阿部医院）	15日（日） 今井直人（花田医院）
13日（日） 中田宗彦（中田医院）	22日（日） 黒木尚之（黒木医院）
6日（日） 藤岡均（藤岡医院）	29日（日） 小池利幸（小池医院）

※都合により担当医が変わる場合があります。



※休日診療所の担当医は、地上デジタル放送ぎふチャン（8ch）のデータ放送でもご覧いただけます。

子育て支援予防接種事業（水ぼうそう）の一部変更のお知らせ

下呂市では任意の予防接種への助成を行っています。その中で水ぼうそうについては、6月1日から定期接種化されるまでの9月30日まで対象者を次のように拡大して実施することになりました。なお助成額や手続きの方法は変更前と変わりありません。この機会にぜひ接種を受けてください。

【水ぼうそう】

変更内容

◎変更前

対象年齢 1歳～4歳未満

◎変更後（6月1日から）

対象年齢

- ① 1歳～5歳未満
 - ② 平成21年4月2日～10月31日までに生まれた方
- いずれかに当てはまる方
※既にこの助成で接種を受けた方は対象となりません。

不正大麻・けし撲滅運動実施中！

（6月30日まで）

ただいま「不正大麻・けし撲滅運動」が全国で展開されています。

幻覚症状を引き起こす「大麻」や、麻薬の原料となる「けし」の栽培は免許

を受けた人以外、禁止されています。

また自生している大麻やけしを採取したり、所持・乱用することも法律で禁止されています。大麻等の乱用は人の精神や体をむしばんでいきます。

大麻やけしの不正な栽培や自生しているのを発見した場合は、すぐに最寄りの保健所または警察署等に通報をお願いいたします。

禁煙しましょう！

タバコは一度始めるとやめられなくなる、依存性が高い物質ニコチンを多く含みます。このため喫煙者は長期の喫煙歴となる事が多く、各種臓器、組

織に障害を起して、がん、狭心症、心筋梗塞等といった病気を発症しやすくなります。また喫煙しない人も、タバコから立ち上る煙（副流煙）を吸い込む「受動喫煙」という形で、喫煙者と同じような病気にかかる危険性が高まります。

6月6日まで「禁煙週間」となっています。この機会に自分、そして家族の健康を考えて、禁煙にチャレンジしてみませんか？



金山病院では多くの方が入院し、退院していかれます。今回は退院された患者数をもとに地域を支える病院の役割について考えてみます。

この20年間金山病院では、最も多い年には年間872人の退院がありました。平成25年には684人が退院し、退院患者数は徐々に少なくなる傾向にあります。人口が減っているから当然という考え方もありますが、ここで注目しなければならぬのは60歳未満の利用が減少しているのに対して、60歳以上は徐々に増加している傾向にあることです。平成25年には492人で60歳以上の入院利用者が著明に増えており、高度の治療を要する場合を除いて、金山病院が近くで利用できる病院としての機能を果たしていると考えられます。

金山病院入院患者数を地域別に見ると、金山町では徐々にその割合を増し、最近では70%前後となっているのに対し、金山町以外の下呂市の利用者は徐々に増加しているものの8%前後で病院利用のすみわけができていると考えられます。また入院できる病院が近くにあることも重要であることを示しています。下呂市外の利用は、入院患者の25%近くを占めており行政区を超えた広範囲診療圏の信頼を得ていると考えます。

性別でみると男性がわずかに女性を上回っています。

病院死亡は毎年60人前後で悪性腫瘍、肺炎などが多くを占めます。老衰はわずかですが、看取りも病院の役割の一つとして今後この方面でも積極的に受け入れて家族の負担を軽減し、地域を支えていく必要があります。

金山病院入院患者分析からわかること

とを考えます。

入院の主要な原因となった疾患別に見ると、最近では、最も多くを占めるのは消化器疾患で、呼吸器疾患、骨折などの整形外科的疾患、脳梗塞などの神経疾患などが続いています。循環器疾患は病院の専門外といふこともあって5位となっています。いずれにしても高齢者に多い疾患が優位を占めているのは当然といえます。消化器を含めた悪性腫瘍は8%前後で地域を支える病院としては割合が低いと考えています。今後のがんの増加を考えると、がん診療の充実にはさらなる努力が必要と考えています。

長期の入院として、最近では入院後3897日目に死亡した例があります。長期療養中に帰る家がなくなってしまう、家族の受け入れができなくなったり、

理由は様々ですが、現在長期入院が病院経営を圧迫する政策がとられており適正な在院日数を目指しています。

新しい金山病院は将来のためだけでなく、今生活している皆さんのために新築されました。現在の推計では当地域では60歳以上の人口は今後10年間減少することはありませんが、その人たちが病院を利用することによって、また、住民と行政が協力して病院を存続させることが下呂市の未来を明るくものにすると考えます。

下呂市立金山病院 顧問 古田智彦

※金山病院では、医師・看護師の募集をしております。詳細につきましては、金山病院事務課までお問い合わせください。